

あした天気になあれ♪

～男も女も暮らしやすく～

連載第2回

クイズ「有能な外科医」

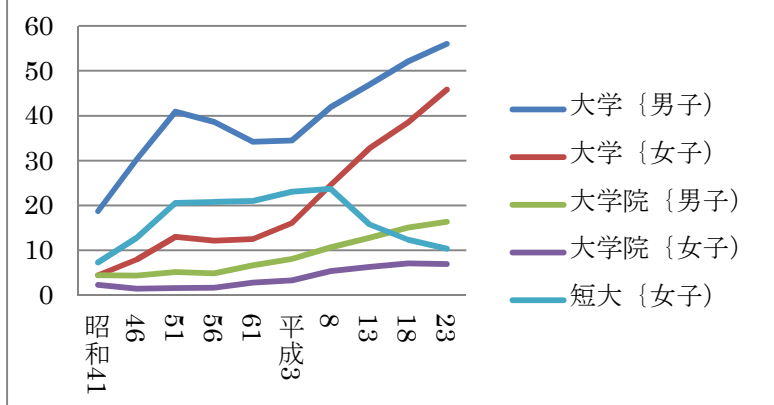
有能な外科医がいるA病院に、救急車で重症患者が運ばれてきました。
緊急手術を行うため外科医が手術室に入ると、患者はなんと自分の子どもでした。
手術は無事成功。患者は一命を取り止めました。
翌日、見舞いに来た客が「一生懸命手術をなさったおかげで、息子さんが助かってよかったですね。」と病室にいた父親に声をかけると
「いいえ、私は手術をしていませんよ。」と答えました。
さて、なぜでしょう？

クイズの答え

「有能な外科医は『母親』だったからです」

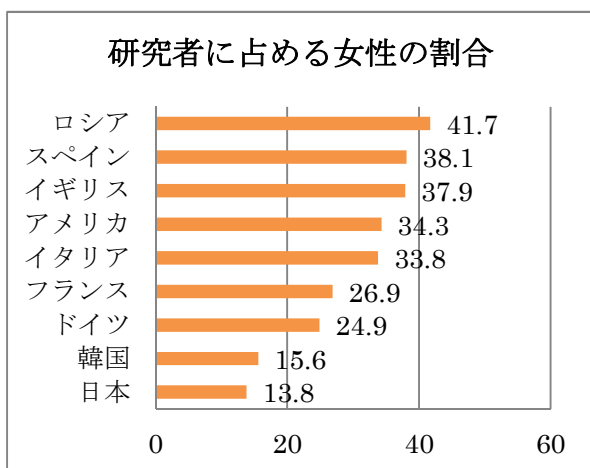
あなたは、「有能」「外科医」というキーワードから、無意識に男性をイメージしませんでしたか？私たちは知らず知らずのうちに、このような「思いこみ」に縛られていることがあります。

学校種類別進学率の推移



進学率は、男女ともに上昇傾向にありますが、まだまだ男性の進学率の方が高くなっています。

(出典：内閣府 平成24年版「男女共同参画白書」)



日本の女性研究者の割合は、13.8%にとどまっており、他の先進諸国に比べて低くなっています。

(出典：内閣府 平成24年版「男女共同参画白書」)

「男だから」「女だから」・・・といった固定的な意識にとらわれず、自分らしくいきいきと暮らせる社会。私たちのまわりは、そんな社会になっているのでしょうか？

平成25年度「男女共同参画週間」の啓発キャッチフレーズが全国多数の応募から【**紅一点じゃ、足りない。**】に決まりました。女性も男性も共に、様々な分野で活躍できるといいですね。

6月23日から29日の1週間は「男女共同参画週間」です。

この機会にあなたのまわりについて考えてみましょう。

企画財政課 電話 22-6825